

vol. 27
JUNE
2021

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

2020年から
JDSにケニアが
仲間入りしました！

表紙：ケニアの風景



ウズベキスタンの自動車産業発展を目指して
(JDS 帰国留学生によるウェビナー)

カンボジア帰国留学生が語る、日本留学の魅力
オンラインでつながる、JDS 留学生（中間研修・日本語研修）
隔離体験記 in スリランカ

JDS

The Project for
Human Resource Development
Scholarship by Japanese Grant Aid





Un Sreynet さん

カンボジア帰国留学生が語る、 日本留学の魅力

カンボジアの現地新聞プノンペンポストにおいて、日本のODA事業の一つとしてJDSが紹介され、3名の帰国留学生のインタビュー記事が掲載されました。

(以下、留学生からのコメントおよび写真は記事からの引用)

[Japanese postgraduate education enriching Kingdom's civil servants | Phnom Penh Post](#)

広島大学にて、質の高い教育制度の構築について学んだUn Sreynetさんは、2017年にカンボジアに帰国。日本での留学生活について「専門知識の習得だけでなく、日本の生活も満喫しました。日本の生活は大変快適で、勉強にも集中することができました」と語りました。2019年には日本を再訪する機会を得て、日本の保護者会、健康教育、評価システムについて学び、現在は教育省にて、カンボジアの教育の質向上のための政策策定に取り組んでいるそうです。

他にインタビューを受けたプノンペン教員養成大学の副学長 Peng Tithsothyさんと、公共サービス省次官の Huot Syneadさんは、日本留学で印象に残った日本人の勤勉さや、日本で学んだ知識を職場で活かしている様子について語りました。

オンラインでつながる、 JDS 留学生

JDS事業では、毎年、滞日中のプログラムとして中間研修や日本語研修が実施されますが、今年はこちらもオンラインでの開催となりました。

中間研修では、帰国まで約半年となったJDS留学生が、講義やグループワークを通して、日本での学びを振り返ります。元内閣官房参与・慶應義塾大学大学院の谷口智彦教授の特別講義「日本の課題と可能性」では、地政学や人口問題の切り口から日本が直面する課題と可能性が解説される中、JDS留学生は母国の状況について振り返り、行政官として、帰国後に日本留学で得た知識、経験を生かして、どのように貢献できるかを改めて考えるきっかけとなりました。

日本語研修では、35時間の研修を通じて、日本語の日常会話を学び、学生生活におけるマナーや習慣の理解を深めることを目指しました。今回初めてのオンライン開催となりましたが、研修中は笑いが絶えず、日本語学習を楽しむJDS留学生の姿が見られました。

JDS留学生からは、「日本語学習が非常に楽しく、もっと授業を受けたかった」「学んだことが実践的で日本の生活で是非使ってみたい」と好評でした。研修後には、さらに日本語を自主学習したいという声も多く挙がりました。



日本語研修を楽しむJDS留学生と日本語講師



1年ぶりにスリランカへ渡航できることとなり、ワクワクしながら準備を進めましたが、やはり一筋縄ではいかないのがスリランカ。最初の難関はスリランカ政府から渡航許可を取得することで、これがないとVISAだけでなく航空券の購入ができません。私は9月から準備を始めましたが、渡航できたのは1月上旬となりました。

空港到着後、軍の管理の下オペレーションが行われます。フライトから降ろされ、全員倉庫へ連れていかれ手荷物や靴裏に消毒薬をかけられ、びしょびしょに。その後PCR検査を受け荷物をピックアップすると、有無を言わずバスに乗せられ軍の先導のもと一般道を爆走し全員隔離先へ移送されます。バスに揺られること4時間、世界遺産シーギリヤのふもとにあるKassapa Lions Rockというホテルへ強制送還されました。

知り合いからは空港から1時間程のビーチリゾートに収容されたと聞いており、海を見ながら優雅に過ごす隔離生活を期待していました。しかしながら、到着したのは海から遠く離れたサファリ近郊の大自然ホテル。停電も頻繁にありネットも安定せず、夜になると象の雄たけびや水牛の鳴き声、虫の大合唱で、なぜ私はこんなところに…と愕然としました。しかし慣れとは怖いもので、広々と利用できるコテージタイプの部屋でくつろぎ、敷地内を悠々と歩くクジャクや野良犬を眺め餌付けを試みたり、のんびり過ごすことが日々の楽しみになりました。



シーギリヤロック



スリランカカレー

1日3食提供されるスリランカ料理(8割カレー)と、10時と3時に配られるおやつが充実しており、悠々自適な隔離生活を過ごす事ができました。また、コテージ周辺の芝生の庭園を自由に散歩することができ、結果的に大自然ホテルは私にとって最高の隔離先となりました。この生活に慣れたころ2週間の隔離が終わり、突然の現地解散を告げられ、山奥からコロンボ市内まで約200キロ4時間の帰路を自分で車の手配をしなくては行けないという何ともスリランカらしい終わり方となりましたが、通常時では経験できない貴重な隔離生活を体験することができました。

(JDS スリランカ 海外業務担当 宮澤明希子)

JDS 3つの特徴

- 1 **行政官限定事業**
※一部例外がございます
- 2 **5,029名*1 19カ国*2 の実績**
*1 事業終了国の人数も含む *2 現在の事業実施国数
- 3 **大臣・局長級を輩出**

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得します。

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<事業実施対象国> ※受入人数順

ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、タジキスタン、ケニア、エルサルバドル、モルディブ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に着け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わる等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による JICA 留学生受入支援事業です。

Editor's Note

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

今年は、JDS 対象国に新しく仲間入りした、エルサルバドル、ケニア、モルディブの3か国から第1期生をお迎えする、記念すべき年となります。どんな留学生との出会いがあるのかを想像して、期待に胸が高鳴ります。次号以降、本紙でも新規国の第1期生に関する記事を掲載予定ですので、引き続きご愛読いただけますと幸いです。

JDS 事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部 留学生事業課 広報担当
E-MAIL: jds.PR@jice.org